

巻 頭 言

創立から20周年を迎え、本学もいよいよ成人の責を負わされ、成熟への選択を迫られるようになった。20周年記念号が企画されるや、これに現有総力の大部分が躊躇なくしかも短期間のうちに結集され、早くも発刊の運びとなった。このことは、教員各自がこの発刊を機に成熟への選択をわがものとして受けとめられ、そして新しいスタートを切ったあらわれと考えられる。このうえない喜ばしいことと祝福の念を禁じえないところである。

大学において研究と教育がともに要求され、この両者が一体でなければならないことは周知のことである。ときには事を急いですぐに役立つ実践的な面での教育優先が叫ばれることもあろうが、その場合でも研究が常に前提とされた教育姿勢が第1義的なものとならなければならない。

まして成熟期を迎えた本学にとって、このことは緊急かつ重要なこととして受けとめられなければならないであろう。本来の最高学府としての真価を発揮できるのも、教員各自のたゆまぬ研鑽のうえに教育内容の充実の路を見いだすことによってである。

このようなことを理念のひとつとした研鑽の結果が本記念号で見いだされることを念じながら発刊の辞としたい。

1985年10月12日

石 南 國